

意見書

武庫川流域委員会  
委員長 松本 誠 様

2009年7月6日

2009年7月6日開催の第90回運営委員会で協議いただきたく以下の意見書を提出しますのでよろしくお願ひ申し上げます。

流域委員会委員  
田村博美

2006年8月30日に武庫川流域委員会から兵庫県に対し提言書が提出され、これをもとに武庫川水系河川整備基本方針(案)が取りまとめられ国に提出され、2009年3月に国の同意を得て基本方針が決定しました。その後、河川整備計画原案が県で作成され流域委員会の審議及び協議の後本年度中に決定される予定です。整備計画が策定されると以降この方針及びマスタープランに沿った形で河川整備に関わる事業が執行されていきます。

これら一連の過程の中で計画案の策定プロセスおよび原案に対する真摯な審議と協議が重要であることはもとよりですが、さらに重要なことは策定された計画や方針を見守り場合によっては修正を加えていくことです。行政計画はややもすれば行政マン定期的な異動により当初の趣旨や行間の思い入れ等が忘れ去られ無味乾燥の内容だけがそのまま受け継がれる傾向にあります。

流域市民や流域委員会の長年にわたる努力と英知の結晶がいつまでも受け継がれるシステムと対応策を同時に検討していくことも喫緊の課題であると考えます。せっかく2004年に当時の兵庫県知事の英断で設置された全国的にも特異な委員会とこれを取り巻く行政、市民、関係者の熱意と武庫川及び流域市のまちづくりに対する思いを継続させていく方法を皆さんともう一度確認すべきであると考えます。

これまでの経緯と実績を振り返れば、**流域委員会有志を基礎とし流域市民を巻き込んだ「武庫川づくりと流域連携を進める会」**が2007年4月に組織され、約25人から30人の会ができました。2年間で治水、利水、環境・まちづくりなど広範な課題に対する検討会議を約20回開催しました。月一回のペースです。「武庫川の水・魚・つながり」をテーマとしたフォーラムを2回開催し多くの参加者と関心をよびました。特に本年1月の天然アユの復活を目指したフォーラムでは市民、学者、研究者、行政マンなど多くの人々が集まり武庫川への具体的課題が明らかになるとともに期待も大きく膨らみました。これらを背景に県も春から具体のアユ調査に着手し、一歩前進しました。全国の川づくりとの連携も進めました。川の全国シンポジウムへの参加とポスターセッション展示。身近な水環境の全国一斉調査への参加と武庫川水系約25地点での調査実施などです。流域委員会当初から主張し実践してきた**「武庫川と周りのまちをよく知り理解するためのカルテづくり」**(武庫川ガイドブックづくり)。これも基本的な軸組みと主な資料収集、写真撮影もほぼ完了し現在執筆中です。年内の早いうちに出版したいと考えています。長峯先生のご努力による関学総合政策学部の**「川づくりとまちづくり講義」**を通じた学生への発信。会員有志による連続講義として2カ年実施しています。

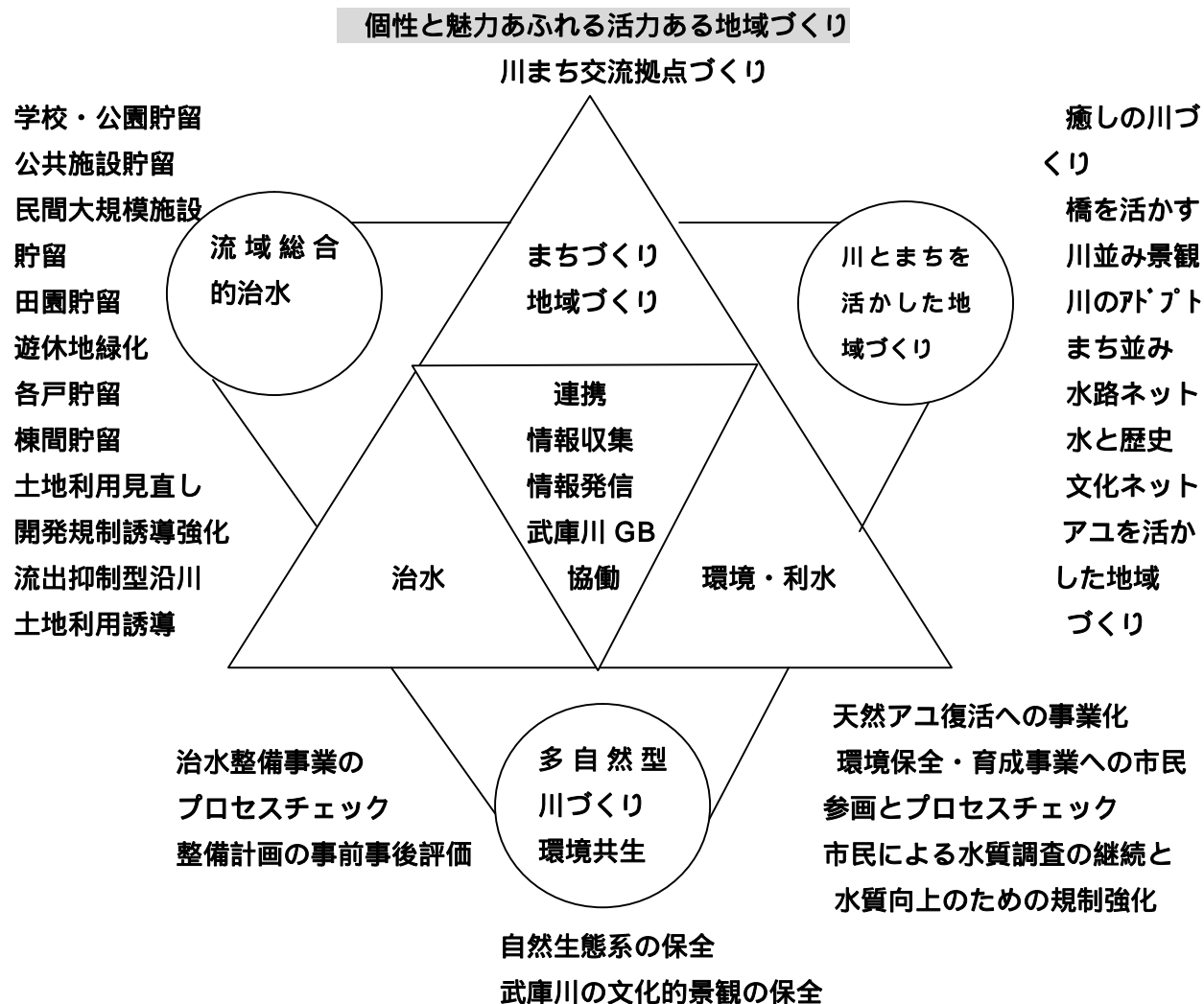
以上、わずかな助成金支援を得ながら会の皆さんのボランティアと熱意で多様な活動が行われ徐々に実績が積み上がりつつあります。

しかし、一方武庫川を取り巻く課題の中身は深くかつ幅は非常に広いためこれまでの成果をもとに飛躍的に効果を拡大するためには抜本的な対応策が必要なことも明らかになってきました。これから数年

間の取組が非常に大切でかつ重要であると考えます。

これまでの活動の中で”武庫川ファン”がかなり存在することも見えてきました。特に武庫川峡谷を週末ハイキングする家族連れや高齢者の多さにはびっくりします。これらの人々をも巻き込み、周辺の自治体や企業、学校などとも連携して武庫川環境を維持し、武庫川らしい川づくりと武庫川を活かしたまちづくりをしていく”今がチャンス”であると考えます。

図：武庫川を取り巻く状況概念図



**これからの課題**

連携を深め広げ、武庫川づくりを見守る組織づくり及び組織強化のための仕組みとプロセスの検討

武庫川流域委員会後の組織づくり

市民、行政、学識で構成する武庫川流域圏会議、具体個別課題検討チームの立ち上げ等

武庫川に関する調査研究と成果の活用

武庫川学会、武庫川実践塾 NPO など

武庫川づくりと流域連携を進める会の発信と協働体制強化・市民行政向け講座やフォーラム開催

武庫川ガイドブック（川づくり・まちづくり・武庫川づくりガイドブック）の出版と PR

武庫川とまちづくりに関わるフォーラム開催やイベント開催、HP 作成、定期的パンフ作成

以上まだまだ記述漏れはありますが思いつくまま書きました。